第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 あいての考えを引き出す しつもんをしよう

「ひみつ道具屋台」を開こう！

2 単元の目標

○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。 【知識及び技能（1）オ】

◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 【思考力、判断力、表現力等A（1）ア】

◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 【思考力、判断力、表現力等A（1）オ】

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
ひみつ道具をくわしくする言葉を知り、その言葉を使って説明している。	必要に応じて情報の取捨選択をしながら、オリジナルひみつ道具について考えている。	相手の話に応じた質問をしたり、感想を伝えたりしている。	ペアのために進んで聞いたり、感想を伝えたりしようとしている。

4 単元について

本単元の言語活動として、「ひみつ道具屋台」を開くことを位置づけた。本単元ではまず、ドラえもののひみつ道具を参考に、児童が日々の生活で「あったらいいな」と考えたオリジナルひみつ道具を考案する。「ひみつ道具屋台」では児童が客側（聞き手）とオーナー側（話し手）に分かれるが、ここでの活動の主役は聞き手である。聞き手は、友達のひみつ道具のことをくわしく聞き出すため、これまでに培った質問の仕方を生かしてひみつ道具についての質問をする。また、話し手側も客の質問にちゃんと答えることができるように、事前に詳しい構想をもたせておきたい。そこで、本単元の4時間目に、友達とのペアトークを行う。ペアトークを行うことで、聞き手側は質問の仕方や感想の伝え方を知り、相手の考えを引き出すことができる。話し手側は質問をされることで、これまでになかったアイデアや気づきを得て、自分の考えがより詳しくなる。このように、話し合い活動をすることで自分と相手の考えをより詳しくすることができるという、話し合い活動のよさに気付かせたい。このペアトークを行うことは「A 話すこと・聞くこと」の（1）指導事項「オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる」の資質・能力を身に付けるために有効な活動であると考えた。

本単元では、「ドラえもののオリジナルひみつ道具」を教材として扱う。ドラえもんは、児童に

とって馴染み深いものであり、どこでもドアやタケコプターなど、モデルになるひみつ道具についても児童はよく知っている。そのため、オリジナルひみつ道具を考える際にも、イメージがしやすいと思われる。また、何でも好きなものを想像してよい、という活動は、2年生の児童にとってわくわくするものであり、意欲を引き出すのに適していると考え、教材として設定した。

話を聞いて感想を話したり、質問したりする学習は、1年「くわしく きこう」の単元や、2年「ともだちは どこかな」の単元で学習してきている。これらの学習の積み重ねの上に、本単元ではさらに話題について情報を収集すること、集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことの力を養いたい。

5 単元の目標を達成するための手立て

【手立て1】ペアトーク（帯活動）

話し合い活動の基本的な技能を身に付けさせるため、帯活動の中でペアトークを行う。このペアトークでは、話し合いそのものに慣れる目的のほかに、話し合う際の姿勢・目を見て聞く・相槌をうつ・共感的に聞くことなど、基本的な技能を身に付けることを目的とする。

【手立て2】ICTを活用した手引きの作成

話題を設定する力、および集中して聞き、内容を捉えて感想をもつ力を身に付けさせるために、教師の手引き動画を作成する。ペアトークをする際に、どのような感想がもてるのか、どのような質問ができるのか、児童が見て分かるような動画を作成したい。動画を見ながら児童と一緒に活動のポイントを考えたり、掲示物やカードにしたりすることで、活動の手助けになると考える。

また、ICT機器の録画機能を活用することで、上手にペアトークを行った児童の録画を手引きとして活用することもできる。児童自身の録画を活用することで、より主体的な活動につながるだろう。

【手立て3】質問や感想を伝えるための支援「つっこみカード」

手立て2で見せた手引き用の録画から、質問や感想を伝える話型のカードを作る。例えば「どうして～」「どうやって～」「どんな～」などの質問カードや、「いいね!」「すてきだね!」「きれいな色だね」などの感想カードなど、ある程度決まった話型のテンプレートを「つっこみカード」とする。つっこみカードは、質問と感想の二つを上手に伝えるための手立てであるが、もう一つ、「アドバイスカード」を加えたい。アドバイスは「例えば～はどうか」「～すると、もっといいよ。」などの話型で、相手の話の内容をしっかりと捉えていなければ難しいので、A規準としたい。児童にも、質問・感想までで○、アドバイスまでできると◎であることを伝え、児童自身が自分たちの活動を自己評価できるようにしたい。

6 指導計画

次	時間	学習活動	指導や支援の手立て（◇は評価）
第一次	1	○単元の見通しをもつ。 ・「ひみつ道具屋台」という単元のゴールを理解する。	・ドラえもんを導入に、児童がワクワクするような言語活動の紹介をする。
第二次	2 ・ 3	○ひみつ道具のイメージを紙にかく。 ・教師の例から、かく要素を理解する。 ・付箋を使い、ほしいもののイメージを言葉にする。 ・白紙に絵をかく。	・すぐに絵が描けない児童は、付箋を使ってイメージを膨らませるよう伝える。 ◇【知】ひみつ道具をくわしくする言葉を知り、その言葉を使って説明している。（観察・記述） ◇【思A】必要に応じて情報の取捨選択をしながら、オリジナルひみつ道具について考えている。（観察・記述）
	4	○活動の流れを知る。 ・手引き映像を見て、つっこみカードを作成する。 ○ペアトークを行う。 ・一度目のペアトークを行う。 ・一度目のペアトークについて振り返る。 ○ペアトークの内容を、自分のひみつ道具に反映する。	・つっこみカードを作成することで、児童が円滑にペアトークを行えるようにする。また、自己評価をする規準とする。 ◇【思A】相手の話に応じた質問をしたり、感想を伝えたりしている。（観察・動画） ◇【態】友達のために進んで聞いたり、感想を伝えたりしようとしている。（観察・記述）
	5 (本時)	○友達の活動を共有する。 ・上手にできた友達を参考に、活動のポイントを考える。 ○ペアトークを行う。 ○ペアトークの内容を、自分のひみつ道具に反映する。 ・振り返りを行い、ペアで話し合いをすることのよさを理解する。	・ペアトークは、早くに終わってしまったペアには掲示物を確認させ、もう少し質問を重ねられるよう支援する。 ◇【思A】相手の話に応じた質問をしたり、感想を伝えたりしている。（観察・動画） ◇【態】友達のために進んで聞いたり、感想を伝えたりしようとしている。（観察・記述）
第三次	6	○発表の準備を行う。 ・話す内容を整理する。 ・声の出し方、言葉の速さなどを練習する。	・うまく話し方の練習ができない児童には、付箋を並べ替えることで原稿にしてよいことを伝える。

7	○「ひみつ道具屋台」を行う。 ・オーナー側、客側に分かれて、屋台活動を行う。 ・話しを聞いてくれた相手には、ひみつ道具の複製カードを渡す。 ○振り返りを行う。 ・めあてを達成できたか。 ・できるようになったことは何か。	・第四時で使った掲示物などを活用し、質問や感想を伝えることを伝える。 ・話し合い活動をすると、相手や自分の考えをよりくわしくすることができることに気付かせ、話し合い活動のよさを実感させる。

7 本時の指導（5／7）

（1）本時の目標

○相手の話に応じた質問をしたり、感想を伝えたりすることができる。

（思考力、判断力、表現力等）

○ペアのために進んで聞いたり、感想を伝えたりすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

（2）評価規準

観点	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	相手の話に応じた質問をしたり、感想を伝えたりしている。	ペアのために進んで聞いたり、感想を伝えたりしようとしている。

(3) 展開

時配 (分)	主な学習内容と 活動	指導や支援の手立て (◇評価)	教具
3	1 本時の学習課題を確かめる。	○めあてカードをもとに、本時の学習課題を提示する。	○めあてカード
ペアトークをして、友達のひみつ道具をもっとくわしくしよう！			
10	2 活動のポイントを確認する。	○前時のペアトークから1～2ペア抽出しておき、録画を見せる。それにより、友達のひみつ道具をくわしくできるポイントは何か、児童が気付くようにする。 ○質問の仕方、感想の伝え方のポイントを明らかにし、掲示する。	○例示用の録画 ○つつこみカード
12	3 ペアトークを行う。 2分×2回	○2分をベルで知らせる。 ○早く終わったペアは、つつこみカードを確認しながらさらに質問を重ねるよう伝える。 ○うまく活動ができていない児童には掲示物を示し、活動の補助をする。それでもうまく活動できない場合は、予想される質問や感想を示す。 ◇相手の話に応じた質問をしたり、感想を伝えたりしている。(思考A：観察・動画) ◇ペアのために進んで聞いたり、感想を伝えたりしようとしている。(主体的な態度：観察・動画)	○ギガタブ(録画用) ○ベル
10	4 話し合ったことを自分の「ひみつ道具」に反映する。	○録画を確認してもよいことを伝える。 ○付箋に追加するものは、よいと思った考えだけでよいことを伝える。 ○新しい考えを付箋に書いて追加する。	
7	5 振り返りを行う。	・話型を使うことはできたか。 ・どんな話し合いをして、どう考えが変わったか。 ・話し合うことの良さは何か。 ・振り返りカードを書く。	○ふりかえりカード
3	6 次回の活動の見通しをもつ。	○次回は屋台の発表練習を行うことを伝える。	